

神協連ニュース

No.470 2021年2月16日

横浜市港北区新横浜2丁目6番地13
新横浜ステーションビル9階 〒222-0033
TEL 045-473-1031 (代表)
FAX 045-473-9272
Email:kccf@qf7.so-net.ne.jp
http://www.coopkana.jp

おめでとうございます。 神奈川みなみ医療生協70周年

神奈川みなみ医療生協の前身である横須賀生協が設立して、70周年を迎えました。

住む家もなく、食べ物もなく、失業者が街にあふれていた時代。特に食べ物の確保は緊急の課題であり、食料要求・獲得のための組織として、生協をつくる運動が各地で行われていました。横須賀では、市民のくらしを守る運動の先頭に立って活動していた加藤勇さん達によって47年10月に横須賀生協が設立されました。まだ戦前からの産業組合法の時代です。

現在の消費生活協同組合法(生協法)は48年10月1日に施行されました。そして生協も改めて生協法の下で設立の認可を受けることとなり、横須賀生協は、50年11月18日に設立認可を受けました。

設立当初は、横須賀生協は購買生協でしたが、55年に衣笠診療所を開設し、全国でも数少ない購買・医療併設の生協と

なりました。その後、76年11月14日に購買事業と医療事業の分離の総代会を行い、医療事業は横須賀生協、購買事業は77年3月20日に設立の神奈川みなみ生協(現:ユー

コープ)となりました。現在の「神奈川みなみ医療生協」の名称は、1983年5月29日の総代会議決によります。

73年7月から75年10月までの間、大窪敬三・横須賀生協理事長に神奈川県生協連の会長職を担って頂いてもらっています。

これからも「安全」「安心」「信頼」の保健・医療・介護サービスを誠実に提供し、安心して住み続けられるまちづくりに貢献してください。

70周年おめでとうございます



おめでとうございます。 神奈川大学生協設立50周年

神奈川大学生協(神大生協)は、1970年11月13日に神奈川大学大講堂で設立総会を開きその正式な活動が始まりました。戦後間もない1945年の秋には、多くの大学や高等専門学校で学生大会が開催されました。教材 や文具が不足し食糧難が深刻化して「学ぶことは食うこと」であった時代、決議されたことは、学生自治会の創設とともに学生の厚生に関わる問題であり、その後、協同組合(生協、共済会、厚生会)が全国的に作られていきました。当時の横浜専門学校(現神奈川大学)では、学生団体である校友会(1948年5月に自治会に改称)のもと専門部が組織され、その中に共済部が置かれ、小規模の食堂経営が行われ図書やバッジなどが販売されました。その後生協創設までは長い歳月を要し、この間には先人の多くの努力がありました。

1968年に学生を中心に教職員を巻き込んだ大学の民主化闘争が起こり、生協はこの闘争の過程で設立が承認されました。しかし創設までには更に幾多の苦難がありました。

1970年4月に神奈川大学生の堀井君・小林君がアルバイト中に 労災で事故死という痛ましい事件が起こりました。学生2人の事故死は当時の学生にとってショックでした。この時代は高度経済成長期でしたが、高物価、インフレは学生の生活を圧迫し、学生アルバイトを急増させていました。神奈川大学にお

ける生協設立は、学生が学ぶためには働かねばならず、身心ともに蝕ばれていく存在であることを深刻に受け止め、学生の経済的な負担を少なくすればアルバイトを削減できるとの主張と闘いは、多くの学生・教職員の共感を得ました。生協は、「このような学生生活の破壊を、自らの生活基盤の中から対抗すべき地平を構築」(総代会議案書)することと位置づけて取り組まれたのです。今の世の中に通ずる内容です。

設立後も様々な困難を乗り越え、「食」「購買」「プレイガイド」の3つの柱を充実させつつ、学生や教職員の憩いの場、食事の場、勉強研究生生活を支える場として大学生活のサポートをしてきました。そして食の安全・安心、地産地消、寄付講座や学生を対象とした山形庄内での農業体験、健康づくり、平和、被災地支援、福島の子ども保養への支援、フードバンクかながわへの加盟など幅広く問題意識を持って取り組んでいます。

50周年おめでとうございます。このコロナ禍でもぜひ次の発展を切り開いてください。



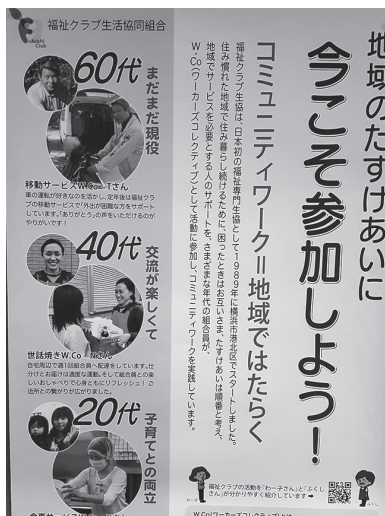
福祉クラブ生協で職員のSDGs研修を実施

今回の職員研修は、コロナ禍であっても、いや、コロナ禍だからこそ、17のゴールに向けて社会をつくり変えていけるように、福祉クラブ生協の活動・自分たちの業務との関わりを学ぶ、そんな思いで研修は持たれ、県生協連は運営に協力しました。

SDGs研修としては初めての5会場に分かれてのオンラインセミナーは、講義と個人ワークの組み合わせで行いました。個人ワークのテーマは、「このコロナ禍で気が付いたこと・問題だ・いいなと思ったことは？」です。

経済最優先社会がもたらしたゆがみは格差・貧困をさらに広げ、平和をも脅かしています。協同組合は持続可能な社会を実現するために、協同する力で共感を広げ、参加をふやし、くらしや地域から発信していくことが大切です。私たちが生活の中で問題を発見し、仲間と一緒に考え、つながりを広げて行動を起こせば、この社会は必ず変えることができます。

- 日 時／2021年1月29日(金) 17:00~18:10
- 形 態／5会場に分かれてのオンラインセミナー
- 研修テーマ／福祉クラブの活動と「SDGs:持続可能な開発目標」との関わりについて
- 参 加 者／21名 福祉クラブ生協、神奈川県生協連
講師：石田 昌美 神奈川県生協連
統括マネージャー



かながわCo-ネット 福祉健康委員会 2020年度地区委員交流会 「農福連携を知らう！」

神奈川県の協同組合は1986年に提携推進協議会を発足、1988年に協同組合が提携して取り組むべき課題を「すみよい神奈川づくり」基本構想として発表し、様々な運動と事業に取り組んできました。更に2017年3月、地域で協同組合・非営利協同組合の提携・協働をすすめていこうと、神奈川県協同組合連絡協議会(愛称:かながわCo-ネット)を発足させました。福祉健康委員会は「健康」と「福祉」に関する課題別組織として提携推進協議会の時代から活動しています。今回は、初のオンライン交流会として開催しました。

- 日 時／2021年2月5日(金) 14:00~15:30
- 開催方法／オンライン開催

- テーマ／農福連携を知らう! 講師：小島希世子さん 株式会社えと菜園 代表取締役／NPO法人農スクール代表理事
- 参 加／42名

JAかながわ西湘、JA湘南、JA横浜、JAセレサ川崎、JA県央愛川、JA神奈川つくい、JA神奈川県中央会、十日町農業協同組合、パルシステム神奈川、ユーコープ、生活クラブ生協、学生、NPO法人支援センターあんしん、県消団連、県生協連



農作業に必要なスキルも体力もある!
→農作業では、即戦力になれる。

ホームレスが農作業している様子(2009)



神奈川まるごと健康づくり



☆「健康」はすべて人の願いです。フレイルを予防するための重要なポイントは「栄養（食・口腔機能）」「運動」「社会参加」です。この3点はコロナ禍で、体の免疫機能を高める（免疫を適切な状態にする）ための重要なポイントでもあります。

● 感染症防止に努めながら身体活動を安全に行い、心身機能を保つ

☆国立長寿医療研究センターが高齢者を対象にコロナ禍の身体活動を調査（期間：2020年1月～4月、対象：主要都市男女65歳から84歳1,600名）したところ、コロナ前・コロナ禍において、高齢者の身体活動時間が約3割減少していることがあきらかになりました。外出を自粛することで社会的交流や身体活動量が減少し、フレイル（心身の虚弱があらわれた状態）が進み、転倒・骨折しやすくなったり、要介護状態に至りやすくなったりします。感染症防止に努めながらも身体活動を安全に行い、心身機能を保つ必要があると警鐘を鳴らしています。

● 自粛生活の長期化で大切なこと

★ 外出自粛の長期化が「フレイル」を助長する

フレイル（虚弱）とは、健常から要介護へ移行する中間の段階で、ちょっとしたことで要介護に移行しやすい状態のこと。フレイルには、身体的フレイル（ロコモティブシンドローム、サルコペニアなど）、心理的・認知的フレイル（うつ、認知機能低下など）、社会的フレイル（独居、経済的困窮、孤食など）があり、これらの多面的要素による負の連鎖が起こることによって、自立機能を低下させるといわれています。

こころの健康維持（ストレスの発散）や、そのためにメディア情報を見すぎないことも重要です。

★ こんな傾向・状況は要注意

- ✓生活範囲が狭く、外出頻度も減った（生活の狭まり・目的のある外出が少ない）
- ✓家族・友人との交流が減った（友人との交流・家族との交流、3食とも孤食）
- ✓支えがない・不都合な環境（助けを求められる人がいない、買物に不便、経済的困窮）

★ アフターコロナ社会に向けて

まずは、①3密を避け、感染しないようにすること、②生活不活発にならないよう注意すること、そして、③人とのつながり、社会性を保つことです。

● 健康チャレンジ 2020の提出者の声から

健康づくりは、きっかけがないと始めないもの。いつも出ていないことを一つ「これをやろう」と決めて、10月・11月の間に多くの方が取り組みました。こんなコメントを頂きました。

チャレンジ内容は「毎日お母さんへ電話する。結果、お母さんが元気になった」。高齢お母さんへの電話、つながりって本当に大事ということがわかるコメントでした。



● 健康づくりリーダー フォローアップ研修

県生協連の健康づくりリーダー養成講座は、2017年度に始まりこれまで17回行い、379名の方が参加・修了されました。2月以降、コロナ禍のため様々な活動が自粛・縮小となっていますが、普段の健康づくりや免疫力維持・向上について関心が高まっており、再開が待ち望まれていました。3回目となるフォローアップ研修は、福祉クラブ生協の健康づくりリーダー養成講座終了者（健康チェックサポーターと呼称）を対象に、川崎医療生協の協力を得て、コロナ対策のためオンライン参加と2つの会場への参加という初めての形で行いました。

- 日 時／2020年12月16日（水） 13:30～15:30
- 会 場／福祉クラブ生協 きらり港北、藤沢センター
- 参加者／31名（福祉クラブ生協、県生協連）
- 内 容／「講話と実技」「気軽にできる筋力アップ」「健康寿命」を延ばすために
講師：小松 厚志 川崎医療生協 運動トレーナー
「講話と交流」 コロナ禍でのつながり（コロナ禍で必要なこと）／コロナに負けずもつとつながる／健康長寿のための12カ条と3つの重要な基本項目／他
講師：石田 昌美 神奈川県生協連 統括マネージャー

「かながわの食の安全・安心について」学習会

中国製冷凍ギョーザ事件によって脅かされた食の安全・安心を願う組合員の気持ちが27万筆あまりの署名を集める大きな力となり、2009年7月に「神奈川県食の安全・安心の確保推進条約」が制定されました。

食品をめぐる様々な環境変化や生産から流通に関する制度等の見直しもあり、継続的な学習が重要です。また「食品衛生監視指導計画」の策定にあたっては、食品衛生法で意見を募集し反映させることが規定されています。神奈川県生協連では食品等を供給する責任の立場とともに、一消費者としての視点でも県に意見を出す機会となるよう、学習会を行いました。

■ 日 時／2021年2月8日(月) 14:00～16:00

■ 開催方法／オンライン学習会 ■ 参加／17名

■ 内 容／学習1：「食の安全に関心を持とう!」野本 健司さん(食の安全を考える会代表)

学習2：「令和3年度かながわ食の安全・安心行動計画」(案) 「令和3年度神奈川県食品衛生監視指導計画」(案)

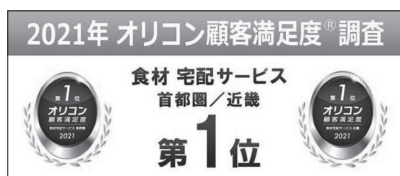
神奈川県健康医療局生活衛生部生活衛生課食品衛生グループ 青山 尚子グループリーダー 植村 知子技幹



おめでとうございます。

生活クラブ生協の食材宅配が2021年オリコン顧客満足度®調査 首都圏と近畿で第1位

第1位の獲得は、首都圏で2年連続・5度目、近畿で4度目となります。特に評価された点は、首都圏では「商品の充実さ」「食材の品質」「商品情報のわかりやすさ」「配送サービス」「コストパフォーマンス」の項目で、近畿では「食材の品質」「商品情報のわかりやすさ」の各項目で高評価となり、総合評価は昨年より首都圏で約2.4ポイント、近畿で約2.5ポイントアップしています。また今回の調査では、ファミリー部門の評価で1位を獲得、さらに首都圏では「ミールキット」部門が1位を獲得いたしました。



おめでとうございます。

パルシステムの「コア・フード牛」の取り組みがSDGs賞(つかう部門)を受賞。

農林水産省、消費者庁、環境省が連携して持続可能な生産と消費を広める活動を推進する「あふの環(わ)2030プロジェクト」主催の「サステナアワード2020伝えたい日本の「サステナブル」」において、「コア・フード牛」の取り組みがSDGs賞(つかう部門)を受賞しました。

今回受賞した「SDGs賞」は、食料プロセスの循環のなかに生産者・消費者・販売者が参画できるしくみがあり、「経済」「社会」「環境」についてバランスの取れた取り組みに贈られるもので、コア・フード牛では動物の生きる環境に配慮していることについても評価されました。

お知らせ

2020年度生協大会のお知らせ

一人ひとりが大切にされる社会を
～「分かち合う」こと、「助け合う」こと、
そして「ともに生きる」ことを～

【講師】 木村 草太 さん(憲法学者)
2021年3月26日(金) 10:00～11:45
オンライン開催
お申込は3月12日(金)迄



▼ 下記URLよりお申込みください。
<https://bit.ly/3ohThRW>



2021年 神奈川県消費者のつどい

「プラスチックごみと私たちの暮らし」
～持続可能な社会を子どもたちに～

- 開催方法：オンライン開催(zoom使用) 要事前予約
- 開催日時：3月4日(木) 10:00～15:15
- 基調講演「持続可能な社会と脱プラスチック」
講師：高田 秀重 氏(東京農工大学教授)
- 事例報告
報告者：五十嵐 実 氏(湘南クリーンエイドフォーラム代表)
- 分科会 13:15～15:15「私たちの暮らしに役立つ標準化」

▼ 下記の URLよりお申し込みください。
<https://bit.ly/34g7syX>

